

# 令和4年度滋賀県デジタル社会推進懇話会（第1回） 議事概要

## 1 日時

令和4年6月6日（月）9時30分～11時30分

## 2 場所

滋賀県庁新館7階 システム設計室 I A・I B

## 3 出席者（敬称略、五十音順）

新井 イスマイル（奈良先端科学技術大学院大学総合情報基盤センター 准教授）

北井 香（特定非営利活動法人まちづくりスポット大津 コーディネーター）

酒井 道（滋賀県立大学地域ひと・モノ・未来情報研究センター センター長）

酒井 洋輔（滋賀県PTA連絡協議会 副会長）

澤 健太（株式会社リーフワークス 代表取締役）

島田 洋子（京都大学大学院工学研究科 准教授）

永浜 明子（立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科 准教授）

福島 直央（LINE株式会社 公共戦略室 室長）

前神 有里（一般財団法人地域活性化センター フェロー・人材育成プロデューサー）

毛利 公一（立命館大学情報理工学部 教授）

事務局：中後 康（滋賀県DX推進課長）他7名

【欠席者】花戸 貴司（東近江市永源寺診療所 所長）

別府 達也（ヤンマーアグリジャパン株式会社中部近畿支社アグリサポート部 課長）

## 4 議題

- (1) 座長の選出
- (2) 滋賀県DX推進戦略について
- (3) 今後の懇話会の進め方について

## 5 議事概要

### (1) 座長の選出について

委員の互選により、酒井 道委員を座長として選出した。

### (2) 滋賀県DX推進戦略について

資料2および3に基づき、「滋賀県DX推進戦略」概要および令和4年度滋賀県DX推進戦略実施計画について、事務局から説明。

## 委員意見および事務局回答

(委員) 誰一人取り残されないと言っても、取り残される方が出てくるのは事実である。取り残された方へのフォローはどのように考えているか。

(事務局) ご指摘のとおりである。デジタルデバインド対策の事業で、スマートフォンの活用等に長けた方に声かけをし、お住まいの地域の一般の方に使い方を教えてもらうような取組を進めていこうと考えている。

(座長) どう取り残さないかっていうところが難しいので、一つの施策ではなくて、この施策とこの施策というような形で、対象が重複するようであっても、全部重ね合わせて繋ぎ合わせて、より多くの方がカバーできるような方向に施策を打つといいと思います。デバインド対策これでいいでしょ、予算つけました、だけではなくて、おそらく予算一つでは足りるものではないだろうから、そこを重層的にするというような考え方はあっていい内容だと思う。

(委員) 一番大きな根幹となる、将来の方向性を示した滋賀県基本構想と、DXの議論の両方を常に俯瞰できるような資料がほしい。また、それぞれの担当課に懇話会で出た意見を共有したり、担当課の視点を吸い上げていくようなものすれば、重なった部分や手を取り合う部分が見えてくると思う。

(事務局) 基本構想の目指すところに向かってDXを進めていくものと考えている。資料は準備させていただく。また、分野を横断したような議論になると考えており、ご指摘いただいたような観点を踏まえた形で進めていきたい。

(委員) 職員が情報を共有できるツールが大事。各部署がアクセスしやすい情報共有のツールがあれば、相互理解にも繋がる。これからDXを始めるのであれば、戦略の基本理念の共通理解のために工夫が必要ではないか。

(事務局) 具体的な取組はこれからになるが、今年度ワーキンググループを立ち上げ、庁内のデータを見える化したいと考えている。県庁内でもDXの理解が進んでいないため、研修などを通して土台となるひとつづくりに取り組んでまいりたい。

(委員) デジタル化を進めていくことは良いことばかりではないので、マイナスになる部分をどう補完していくかについても考えたほうがいい。例えば、学校教育の中では身体活動量の確保と言われている反面、ICTが入ってきたことによって、休み時間に子どもがタブレットを触っていて外に出ようとしらないなど、デジタルが入ることにより阻害されることもある。

(事務局) デジタル格差の是正にかかる事業はあるが、今年度の具体的な事業の中で、ご指摘いただいたような事業は無いように思う。戦略の基本理念にあるように、人が人らしく生活するためにデジタルがある、というような関係を意識していきたい。

(座長) これまでの議論になかったが、議論しなきゃいけない大事なポイントだ。デジタル化することへの良い面と悪い面はみんなて共有しながらどう進めるか、という話になると思う。

(委員) 行政のDXに関して提供者視点から利用者視点とあるが、この利用者に職員も入れた方がいい。今後人口減少により職員も減っていく。職員がどうすれば働きやすくなるかという視点がサステナビリティの観点から重要である。アナログだから必要だった手続はデジタル化することによって削れると思う。業務量や手続を減らすことが一つの評価指標になるということを通認識として入れておくことで、よりみんなにとって便利な社会が生まれてくると思う。

(事務局) 県庁の内部において、職員が利用するシステムを提供しているような部署があるため、そういった部署に向けてのメッセージでもある。おっしゃっていただいたような視点で、県民の方だけではなく、内部の職員に対してそういったような意識を持たせるようにしたい。

(委員) 一つの情報をいろんなチャンネルで活用できるようなものを作ってインフラを整えていくことで、それぞれのリテラシーに応じた情報の取り方ができる。上に合わせるとか、下に合わせるというよりは、県がやっていきたいことに対して、オムニチャンネルでどうやっていけるかというインフラの整備の2軸で推進していければいい。

(座長) 発信の仕方についてはまさにその通りで、回覧板はメールで流すようにしたから紙をやめるのではなく、並行してSNSでもLINEでも流すというようなそのような仕方でいいと思う。それはだぶっているのではなく、より県民一人ひとりのためであると理解した。

(委員) とにかく作ったデータでプライバシーに影響しないデータは、基本的にオープンにするという発想でやる方がいい。この推進戦略の中で書くとしたら、今後システムを調達する際の仕様書に、オープンデータを公開するための機能を記載するなど、そういうのを入れるだけでも違うと思う。

(座長) 大変貴重なご意見だと思う。ぜひ担当部局にお伝え願えればと思う。

(3) 今後の懇話会の進め方について

資料4に基づき、今後の懇話会の進め方について事務局から説明。

意見なし。